

地域社会に貢献できる「知的体力」を養成する変革を 学科改編で次代の教育にシフト

グローバルな視野に立ちながら 地域に根ざした教育機関へ

常磐大学・常磐短期大学は、インターネットが牽引する知識集約型の産業社会に貢献できる人材を育成するため、2008年4月より学科構成を再編する。今回の学科改編は、これまでの「知」の枠組みを見つめなおし、茨城県をはじめとする地域社会の要請に応えるための基盤を形成するもの。「知識」のうえに「知恵」を付加した人材を育成し、グローバルな視野に立ちながら徹底的に地域に根ざし、地域に貢献する教育機関として評される大学・短大を目指す。

大学の学科改編に際しては「心理学科」「教育学科」「健康栄養学科」「経営学科」の4学科を分離独立ならびに新設。短期大学では、生活科学専攻の強みを継承してキャリア教養学科の充実をはかり、収容定員を増やす。また、教養教育の基本に立ち返り、総合講座の見直しもはかりながら、幅の広い視野を持ち課題に挑戦するジェネラリストを育成する。

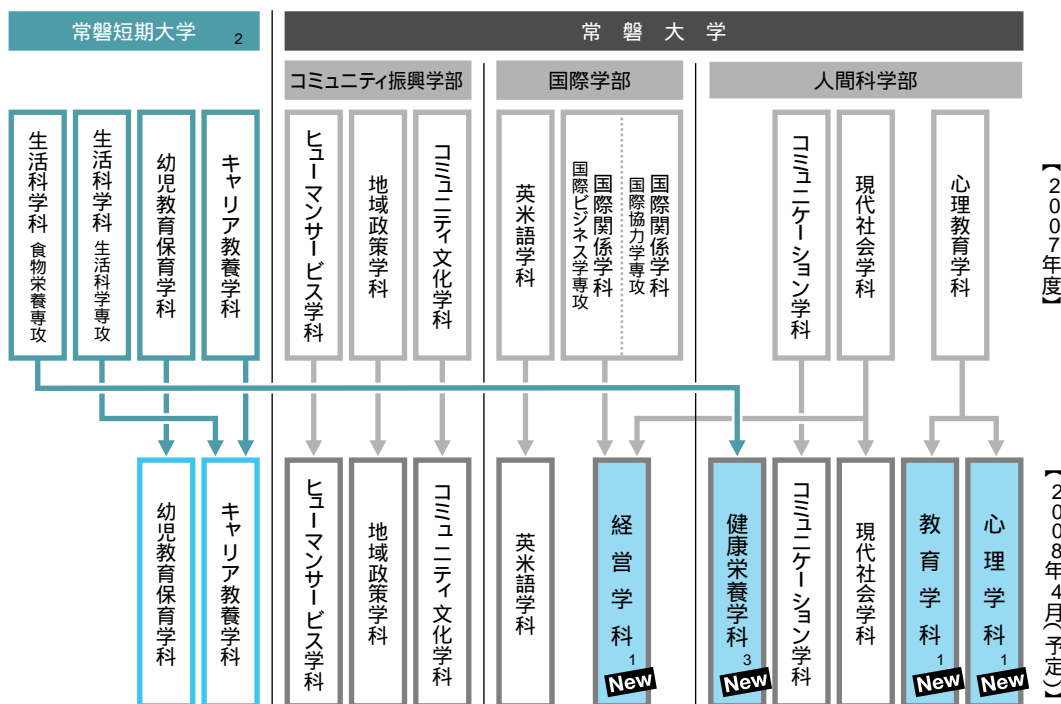
地域の要請に応えるため 専門性を活かす4学科を新設

人間科学部の「心理学科」は現代人の心理を捉え、複雑化する社会で健やかに生きる方法を見いだせる人材育成を目指す。「教育学科」は教育学を土台に、学校教育学、カリキュラム、教育方法、小学校の各教科指導法を学ぶとともに、実践的指導力を備えた小学校教員の育成が目的。「健康栄養学科」は、短期大学の生活科学科食物栄養専攻が培ってきたノウハウを基盤に開設。栄養学の知識はもちろん医学的知識を身につける教育研究も行い、管理栄養士国家試験に全員合格させることを目標とする。

国際学部の「経営学科」は、次代のビジネスリーダー育成が目的。企業経営の理論や動向を学びながら企業との連携を含む実践的な科目を通じ、高度なビジネススキルを習得する。

今回の全学的な学科改編は、学生たちの知的体力を養成することが大きなテーマ。教育マニフェストの着実な推進にもつながる変革だ。

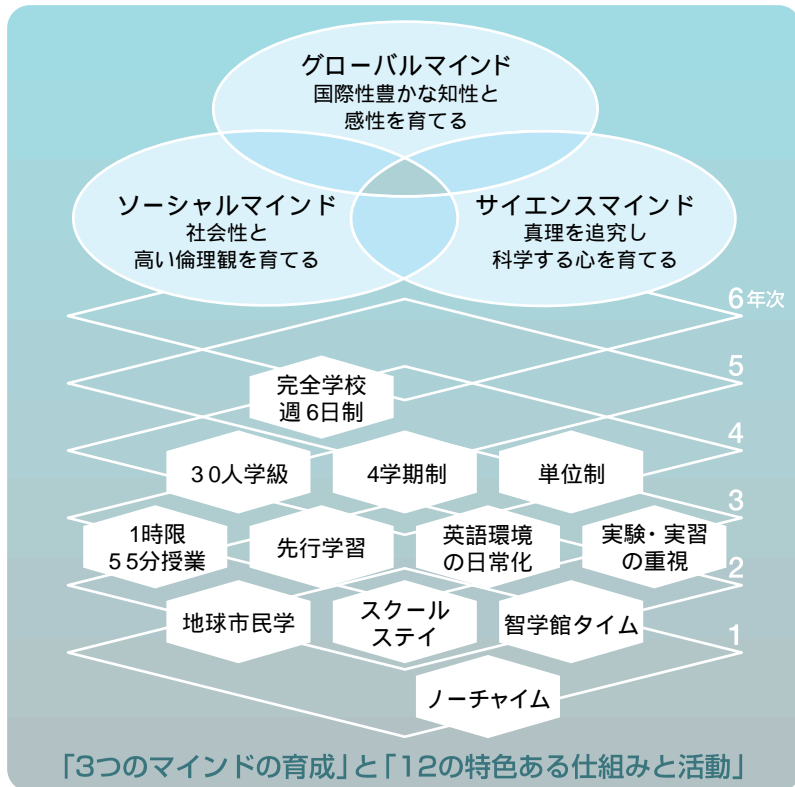
2008年度学科改編



シリーズ・智学館中等教育学校(認可申請中) Vol.1

2008年4月、^{ちがくかん}智学館中等教育学校が開校(認可申請中)

—「自己に誇りを持ち、たくましく未来を切り拓く」人間の育成を目指して—



2008年4月開校予定の『智学館中等教育学校』は、3つのマインドと9つのコンピテンシー(能力)を教育活動の中心に据え、時代と社会の要請に応えられる人材育成に取り組む。3つのマインドとは国際性豊かな感性を育てる『グローバルマインド』、社会性と高い倫理観を育てる『ソーシャルマインド』、そして真理を探究し科学する心を育てる『サイエンスマインド』。この3つを核として一人ひとりの個性や能力を開発し、伸ばさせることで、国際社会・市民社会で貢献できる人材の育成を目指す。

さらに、9つのコンピテンシーを育成するという、より具体的な達成目標も掲げている。将来設計能力・客観的分析能力・意思決定能力・計画実行能力・問題解決能力・コミュニケーション能力・役割認識能力・人間関係形成能力・創造的思考能力、これらの能力を高め、質・量ともに充実した学習を実践することで「自己に誇りを持ち、たくましく未来を切り拓く」人材を育てていく。

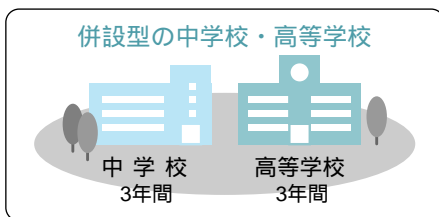
特色のある仕組みと活動でバランスのとれた成長をサポート

智学館中等教育学校は、教育目標を達成するための仕組みとして『12の特色ある仕組みと活動』を掲げている。例えば4学期制の採用もそのひとつ。4学期制でメリハリのある学校生活が可能となる。また授業時間を大切にするため、標準より5分長い55分授業を採用。7時限授業も実施し、5教科(国、社、数、理、英)は公立学校の1.2倍から1.9倍の授業時間を確保する。英語能力の向上に関しては、外国人教員による授業などを展開。NET(Native English Teacher)が常駐する英語教室も設け、国際感覚を日常的に養成する。生徒の論理的思考を養うのが、実験・実習を重視した理科教育。理科実験実習室4教室による完全教科教室型授業や天体望遠鏡を使った天体観測など発見探究型学習を行う。さらに、社会が直面する課題を地球規模で認識し、問題を解決する能力を養うため「地球市民学」の授業を開設。教科横断型の学習と約1万字の研究論文を作成する。そして、自学自習の習慣や互いに切磋琢磨し学びあう力を深めるのがスクールステイ。学校内の宿泊施設を利用した短期寄宿舎生活で学習のほかにも、生徒の身近にチューターを常駐させ、学校行事や将来の夢などのアドバイスも実施する。ほかにもさまざまな仕組みと活動を設け、生徒たちのバランスの良い成長をサポートする計画だ。

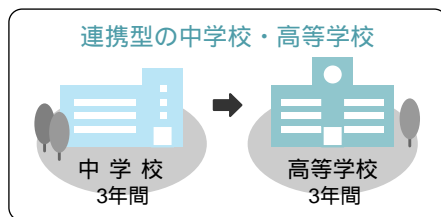
中高一貫教育校の種類



6年間をひとつの枠組みとして捉え、計画的で系統的な学習指導・進路指導を行う。智学館中等教育学校(認可申請中)は、このタイプ。



高等学校入学者選抜を行わず、同一設置者による中学校と高等学校を接続するタイプ。



異なる設置者による中学校と高等学校が、教育課程の編成や教育・生徒間交流などの連携を深めるタイプで、連携している高等学校への進学は、簡便な入学者選抜が行われる。

シリーズ・智学館中等教育学校（認可申請中）Vo12

来春の開校に向けて校舎新築工事に着工

地鎮祭を行い『校舎・体育館』新築工事の安全を祈願

2008年4月の開校を目指す智学館中等教育学校は、水戸市小吹町内の常磐大学校ノ牧グラウンド隣接地において校舎の新築工事に着工した。それに先がけ2007年5月1日に地鎮祭が執り行われ、関係者らが工事の安全を祈願した。

敷地面積は約24,487㎡と広大で、自然に恵まれた学びの場にふさわしい環境。現在、1期工事として校舎と体育館の建築が始まっている。

校舎は、2階建て（延べ床面積約7,178㎡）で「緑豊かな潤いのある学舎」が基本コンセプト。そのため大型建造物では近来めずらしい、温かみのある木造建築が採用された。

また、体育館は、鉄筋コンクリート造りの2階建て（延べ床面積約3,751㎡）で、アリーナ（電動移動式観覧席、バスケットボールコート2面）、マルチスペース、プールなどを設置。スポーツをはじめ、各種行事など多目的な用途に対応できるよう設計されている。

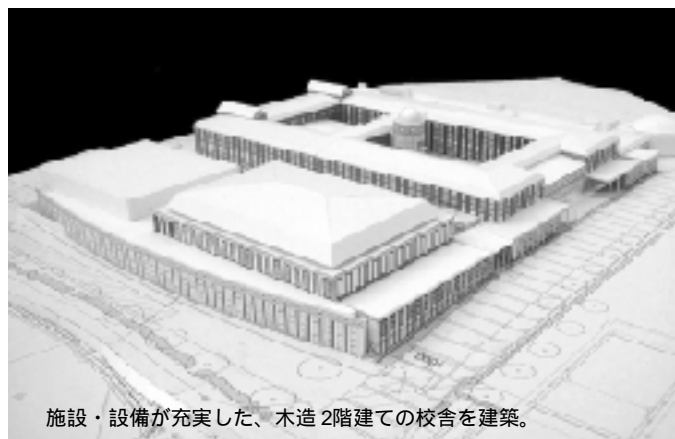
入学定員1学年120名、総定員720名となる生徒たちの学舎が、来春の開校を目指し着々と完成に向かっていく。



地鎮祭には学校法人常磐大学の関係者が訪れ工事の安全を祈願した。（上）

地鎮祭でくわ入れを行う諸澤英道理事長。（左）

安心して学べる空間を提供する、充実した施設・設備

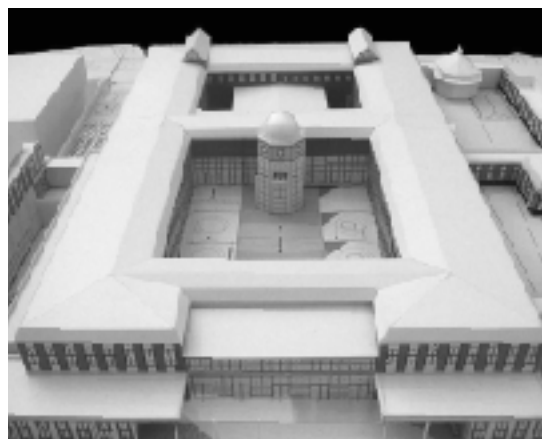
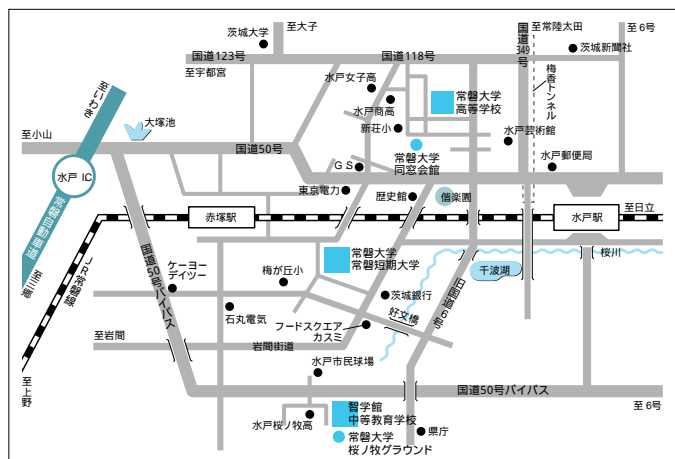


施設・設備が充実した、木造2階建ての校舎を建築。

2階建て木造建築となる智学館中等教育学校の校舎は、中庭を取り囲む口の字型に配置され、教育目標に合わせて普通教室、NET（Native English Teacher）常駐の英語教室、物理地学実験室など4つの理科実験実習室、図書室やパソコン教室などが一体となったメディアセンター、300名以上が利用できる食堂などを整備する。

また、中央にそびえ立つ塔の最上階には、天体観測室を設置。スクールステイ（短期寄宿舎生活）を行う際には、教員の指導のもと宇宙の神秘を学ぶこともできる。

このように充実した施設・設備を整え、安心して学べる空間・安らぎのある生活空間を提供する。





知的創造産業としての大学の役割 ～文化成長型社会に向けて～

「読み・書き・そろばん、そしてデザイン」の時代へ

中西 元男氏 (学校法人 常磐大学 顧問)

Tokiwa Interview ④

ものづくりを基盤として発展してきた日本社会は、いま知識集約型の社会へと大きく枠組みを変えようとしている。web2.0と呼ばれる時代を迎え、産業構造自体に变革が求められているのだ。その中で知的創造産業としての大学は、どのような形で地域に貢献すべきなのか。また、工業化、情報化の次に訪れる社会とは一体何か。PAOS代表・中西元男先生に、常磐大学・常磐短期大学、そして日本社会の進むべき方向についてお話を伺った。

「日本の国で最大の資源は人です。つまり人をどう育てるのかという、教育の問題が非常に大きいと思います。人という昔は集団主義的な国民を指していましたが、時代はあきらかに個人主義へと変わっています。そこで教育機関は、良い社会人、良い個性人といった顔の見える『市民』を作る必要がある。しかしそのためには、きちんとした哲学が必要です。日本で義務教育が始められたころ尋常小学校が創られました。これは素晴らしいネーミングです。『常なるを尋ねる』と書くわけですが、世の中で生きる常識を身につけるという哲学がそのままブランドになっている。教育を論じるとき、しばしば方法論ばかり語られますが、こうした基本哲学を再構築することが重要だと私は思います。また、知的創造産業にいま求められているのは、寺子屋時代の『読み・書き・そろばん』ではないでしょうか。この3つの要素を現代流に捉えると『読み』は情報を収集すること。『書き』は伝える、情報を発信すること。『そろばん』は採算が成り立つということ。そして私はこの3つの要素にデザインを付け加えたいと思います。良いデザインとは、審美性、快適性、安全性、倫理性、そして個性を備えることです。つまり、これらの要素をあらゆる人工物、あるいは社会に取り込んでいくことがデザインなのです。教育をデザインすることで、そこに『文化』が生まれます。日本ではまだデザインの価値があまり認められていませ

んが、知的創造産業である大学こそがデザインを取り入れていくべきだと私は考えています」

そして、これからの国や地域、そして教育を考える上で、哲学と文化がキーワードとなる。

「江戸時代の日本は文化大国でした。それを支えていたのが、幕藩体制です。それぞれの藩は限られた資源の中で特産物を作り、産業の振興に努め、それが文化となっていった。共存共栄ではなく『競争共栄』ですね。これが地域を活性化する上で重要になります。地域のDNAや資源を活かして、いかに他には出来ないことをするか。そして、こうして創られていく文化が、これまでとは逆に経済成長を牽引する構図に代わっていくべきだと思います。常磐大学は、校舎を造るにも神経が使われている、非常に美しい大学です。また東京のマンモス校とは違い、少子化の時代に求められる学生一人ひとりの完成度を高めやすい環境であることも事実です。これからも、地域においてどのような教育機関になり、どのような学生を育てるのが、その哲学をしっかりと立て具現化していただきたいと思います。それが、読み書きそろばんに続く『そして、デザイン』に結び付くと私は考えています」

中西先生には常磐大学のロゴマーク作成にも携わっていただいた。2009年に開学100周年を迎えるにあたり、今後そのビジュアル・アイデンティティに込められたトキワの哲学を再確認する必要がある。

Profile

なかにし・もと お 桑沢デザイン研究所を経て、早稲田大学第一文学部美術専修卒業、同大学院芸術学中退。1968年、PAOS設立。1980年よりニューヨーク、ボストン、北京、上海に相次いで現地法人を設立。1998年～2000年、Gマークの審査委員長を務める。2000年に、株式会社ワールド・グッドデザインを設立し、新しいデザイン運動かつビジネス戦略の構築を推進中。

まちづくりシンポジウム

『元気なまちづくりのための第一歩』
地域活性化を学生の視点で見る

水戸市と常磐大学の連携事業の一環として、水戸市長の加藤浩一氏、NPO法人「WLL」事務局長の三上靖彦氏を招いての『まちづくりシンポジウム』が、2007年3月24日に開催された。このシンポジウムでは、柄澤ゼミの学生を中心としたまちづくりプロジェクトの学生の他、昨年10月に日本公共政策学会主催の『学生による政策コンペ』で会長賞を受賞した林ゼミの学生、水戸市教育長賞を受賞した水嶋ゼミの学生たちが参加し、若者の視点による水戸市の活性化について討議した。

当日は、高木学長の挨拶から始まり、次にコミュニティ振興学部の林教授による基調講演が行われた。講演の中で林教授は、「今回のテーマは、若い学生たちのまちづくりに対する関心を高める上で、とてもよい機会だった」と話していた。続いて学生の発表に移り、テーマを『みんなでいきたいまち ときめくデートがしたいまち みと』とし、まちづくりプロジェクトの代表学生が調査結果から導かれた提言を発表。PRのためにインターネットを活用することや、市街地に若者の望むデートスポット、自分たちを表現し、自分たちの文化を自由に創造できる場を作るなど、今後の水戸市活性化に新たな考え方を提案した。

柄澤副学長がコーディネーターを務めたパネルディスカッションは、一般の参加者からたくさんの質問が飛び交う、有意義なものであった。その中で感想を求められた加藤市長は「若者が求める水戸とは何かを知るいい機会になった」と話し、また三上氏は「若者の集まる空間を、若者の発想で創ってほしい」と、学生のまちづくりに対する意欲の高さに関心を示していた。

まちづくりとは人づくりである。人が集まることが、まちづくりに繋がって行く。住民自身が具体的なまちづくりを積極的に考え、多くの人が集う地域活性化への大きな一歩となった。



【プログラム】

2007年3月24日

12:30 開場

13:00 開会あいさつ

高木 勇夫（常磐大学学長）

13:10 基調講演

「参加しようよ!『まちづくり』に」

講師：林 寛一

（常磐大学コミュニティ振興学部教授）

14:10 休憩

14:20 常磐大学学生からのまちづくり提言

14:40 パネルディスカッション

「みんなでいきたいまち ときめく

デートがしたいまち みと」

コーディネーター

・柄澤 行雄（常磐大学副学長）

パネリスト

・加藤 浩一（水戸市長）

・三上 靖彦（NPO法人「WLL」事務局長）

・学生代表（常磐大学）

15:20 あいさつ

加藤 浩一（水戸市長）

15:30 閉会

笠間市と連携協力協定を締結

個性と魅力ある
地域の形成と発展に寄与

2007年5月24日、常磐大学は笠間市と少子高齢化社会などを背景とした新たな課題に対応し、個性と魅力ある地域の形成と発展に寄与することを目的として、連携協力協定を締結した。具体的な連携事業として、健康づくりや食育、観光の振興、独自性をもったまちづくりに関することなど、幅広い分野で検討されている。

常磐大学はすでに水戸市と協定を締結しており、まちづくりシンポジウムの開催などを通じて地域活性化に協力している。笠間市との連携協力の協定を締結することにより、地域とより密接に繋がっていくことが期待される。

【連携協力事項】

- (1) 人的、知的資源の相互の活用に関する事。
- (2) 地域の政策課題に関する事。
- (3) 地域活性化に寄与する人材の育成に関する事。
- (4) 共同して実施する事業の企画及びその推進に関する事。
- (5) その他両者が必要と認める事項に関する事。

心理臨床センター公開講演会

子どもの心の世界に『遊び』が影響を与える

常磐大学心理臨床センター主催の公開講演会が、2007年3月7日に開催された。講師を務めたのは明治大学大学院教授で臨床心理士の弘中正美先生。弘中先生は、いじめや閉じこもりなど子どもの心の問題に対して、遊びが心理に与える影響から解決策を探ろうとしている。

『子どもの心の世界』をテーマとした講演では、まず現代の子どもと昔の子どもを比較。描画テストによる検証では、バーチャルとリアルの境界線があいまいになりつつある心理的な変化を指摘した。しかし、その要因とされるゲーム機に関しては、それ自体に問題があるのではなく、コミュニケーション不足が問題であると述べた。また、子どもには本物の代わりではない主観的な現実が存在することを隠れん坊やごっこ遊びなどを通して解説。遊戯療法の実際に関しては、水に脅威を感じていた子どもが、水遊びを通して命の水に目覚める過程を紹介した。弘中先生は「重要なのは、大人が子どもの遊びの本質を理解し、遊べるように保護すること。大人の社会にある危機感や閉塞感が、子どもたちに反映しているのではないか」と講演を締めくくった。



社団法人茨城県経営者協会連携講座

企業の経営者・管理者が講座を開講



常磐大学は、社団法人茨城県経営者協会との産学連携講座開設に関する協定書の調印式を、2007年4月11日に常磐大学本部棟で執り行った。協定書にサインしたのは、茨城県経営者協会会長で、関彰商事株式会社代表取締役会長の関正夫氏と常磐大学・常磐短期大学の高木勇夫学長。産学共同で地域に貢献する人材育成に取り組むことを互いに誓い合い、固い握手を交わした。



この講座の授業科目名は『地域産業論』。茨城県を代表する企業経営者や管理者が、地域経済の実態と各社が実践している経営活動などについて講義するのが特色となる。また、学生が実際の経営者や管理者から直接、地域経済の話を聴くことによって、これらの理解を深めるとともに社会人として必要な心構えや資質・能力を育成することが目的だ。授業は15回シリーズ。その初回は調印式の当日に行われ、茨城県経営者協会の沿革・概要説明、高木学長と関会長の挨拶が行われた。その中で関会長は「学生の皆さんの、真剣に話を聴く様子を見ることができて大変嬉しく思います。皆さんの生活は、先人たちが築いたもの。ですから、未来の子孫のためにも地域貢献は大切なことです。私たちの魂を吸収し、素晴らしい社会人になってください」と学生たちにエールを送った。

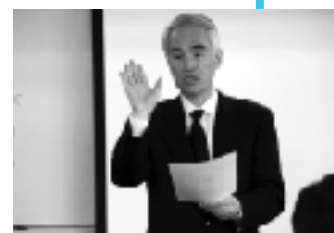
常磐大学オープンカレッジ

高木学長が『大学の地域に果たす役割』を語る

常磐大学オープンカレッジ・特別講座が2007年5月12日に行われた。今回講師を務めたのは高木勇夫学長。『大学の地域に果たす役割』をテーマに、地域における大学の存立意義について語った。

講座の中で高木学長は、「いま、時代は工業社会から知識産業社会へとパラダイム(社会の枠組み)転換が進行し、その中で地域社会が多層化しつつある。急速に変化する時代に対応するためには、官や民に依存するだけではなく、非営利領域である産官学民の連携を膨らませる必要がある。このような考え方から、常磐大学では2005年10月に水戸市との包括協定を結び、2007年5月に笠間市と包括協定を結んだ。今後、県下の各自治体や企業とも連携を取って地域に貢献する大学を目指したい」と話した。

質疑応答では、地域と大学が共に発展するにはどうあるべきかを話し合い、大学の今後の活動に市民も期待している様子だった。



学生支援センター

キャリア支援担当から

●「キャリアデザイン講座」が4月からスタート!

低学年向けキャリア支援プログラム「キャリアデザイン講座」が4月から1・2年生を対象にスタートした。本格的な就職活動を始める前の準備講座として大学生活を充実させ、「なりたい自分」を考える場を提供している。是非多くの学生に参加してほしい。(詳しくはキャリア支援担当窓口か <http://www.tokiw.ac.jp/career/index.html> まで)

《キャリアデザイン講座スケジュール》

大学1年生		大学2年生
大学生活を充実させよう ～学びの活用と総合力を高める～	7月	働くについて考えよう ～働くという意味とビジネスを知る～
働くについて考えよう ～働くという意味とビジネス・業界を知る～	9月	仕事を知ろう ～業界と職種を知る～
ディベート ～プレゼンテーション能力～	10月	ディベート ～プレゼンテーション能力～
キャリアデザインを描こう ～職種というもの・将来を考える～	11月	キャリアデザインを描こう ～将来を考え就職活動を楽しむ～

●2006年度就職状況報告

～5年連続就職率上昇!金融業に強い常磐大学～

2006年度の就職率は大学で92.0%(昨年87.2%)短大で96.9%(昨年96.4%)だった(右表参照)。就職率上昇の原因は種々あるが、企業の採用意欲の高まりが主要因と考えられる。3月までの求人件数は、大学で2,090件と昨年を114件、また短大も1,790件と昨年を513件上回り、求人倍率は大学で4.36倍、短大で4.20倍であった。企業の採用活動は早期化しているが、秋以降も採用枠を確保できなかった企業が採用活動を続けており、長期化の傾向が見られた。

区分	卒業生	就職希望者	就職者	就職率(%)
人間科学部	290	265	245	92.5
国際学部	171	158	139	88.0
コミュニティ振興学部	192	180	171	95.0
大学計	653	603	555	92.0
キャリア教養学科	131	125	119	95.2
幼児教育保育学科	162	161	161	100.0
生活科学科生活科学専攻	56	51	49	96.1
生活科学科食物栄養専攻	84	76	71	93.4
短期大学計	433	413	400	96.9

就職先の特徴として、業種別にみると、大学では卸・小売、サービス、金融・保険、製造業が多く、短大では保育所、卸・小売、サービス、製造、金融・保険業が多い。特に県内に本店がある金融機関(常陽銀行、茨城銀行、茨城県信用組合)が就職先の上位3社を占め、人気集中した。また、公務員も昨年より7名増加している。職種別では、大学は営業・販売、事務職が全体の7割を占め、短大は保育士、幼稚園教員、栄養士で全体の約5割、事務職、営業・販売職を含めると9割に達した。

以下本学学生の採用数が比較的多かった企業名を示す。

業種	就職先	大学	短大	計
金融業	株式会社常陽銀行	10	4	14
金融業	株式会社茨城銀行	7	6	13
金融業	茨城県信用組合	11	2	13
複合サービス事業	日本郵政公社	5	7	12
小売業	丸井グループ	1	11	12
小売業	株式会社ケーズホールディングス	10	1	11
飲食店	株式会社日本レストランエンタプライズ	3	7	10
運輸業	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)	9	0	9
小売業	株式会社スズキ自販茨城	8	1	9
公務	茨城県警察本部	8	0	8
医療・福祉	社会福祉法人清心福祉会 たかば保育園・清心保育園	0	8	8
小売業	株式会社カスミ	7	0	7
小売業	東日本キヨスク株式会社	0	7	7
小売業	ネットヨタ茨城株式会社	5	1	6
金融業	株式会社関東つくば銀行	3	2	5
金融業	水戸信用金庫	4	1	5
複合サービス事業	水戸農業協同組合	5	0	5
サービス業	株式会社伊勢基本社(水戸プラザホテル)	3	2	5
サービス業	日清医療食品株式会社東関東支店	0	5	5
サービス業	富士産業株式会社	0	5	5

その他の就職先

- 建設業
 - ・積水ハウス株式会社
- 製造業
 - ・株式会社日立製作所日立事業所
- 電気・ガス・熱供給・水道業
 - ・東京電力株式会社
- 運輸業
 - ・ヤマト運輸株式会社
- 卸売・小売業
 - ・株式会社セブン イレブン ジャパン
 - ・キヤノンシステムアンドサポート株式会社
 - ・茨城トヨタ自動車株式会社
 - ・株式会社三城
 - ・株式会社水戸京成百貨店
- 金融・保険業
 - ・国民生活金融公庫水戸支店
 - ・野村證券株式会社
 - ・大和証券株式会社
 - ・東京海上日動火災保険株式会社
 - ・株式会社損害保険ジャパン
- 複合サービス事業
 - ・全国農業協同組合連合会茨城県本部
 - ・茨城県信用農業協同組合連合会
- 公務
 - ・茨城県職員中級・警察事務

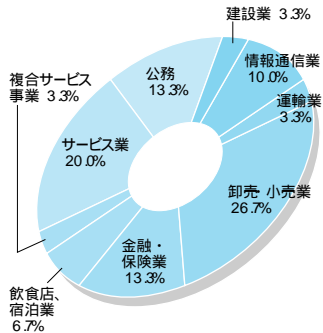
●2006年度業種別就職状況

常磐大学

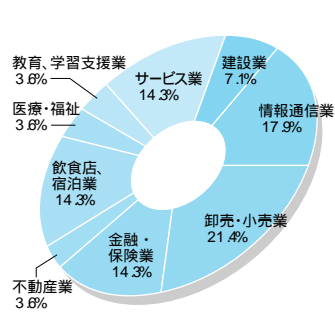
*改組前の学科専攻名となっています。

人間科学部

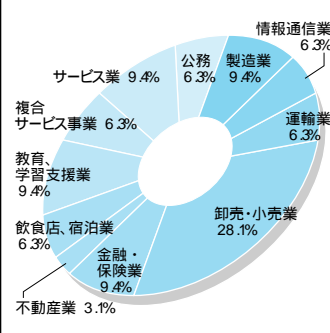
人間関係学科・社会学専攻



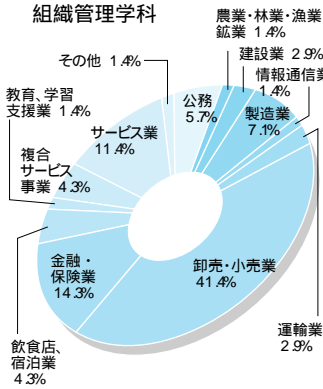
人間関係学科・心理学専攻



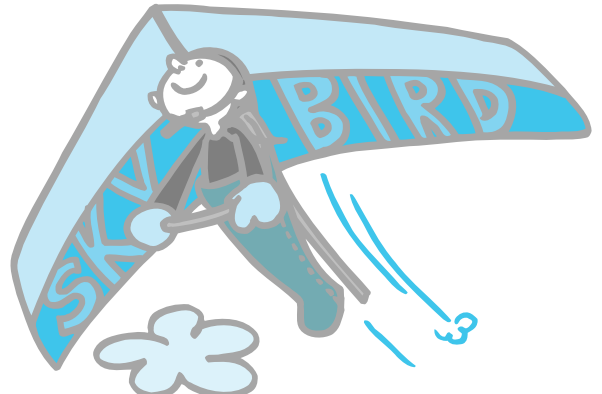
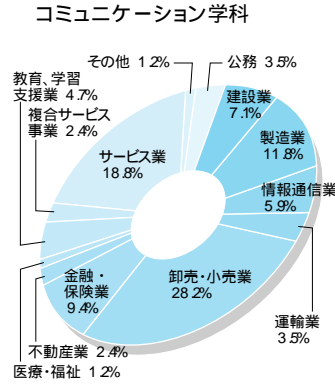
人間関係学科・教育学専攻



組織管理学科

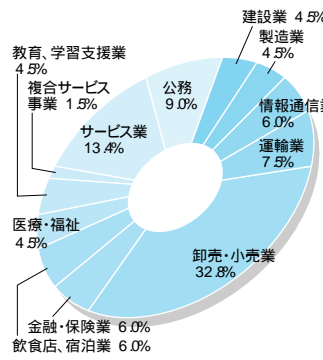


コミュニケーション学科

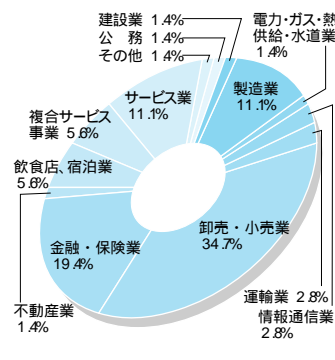


国際学部

国際協力学科

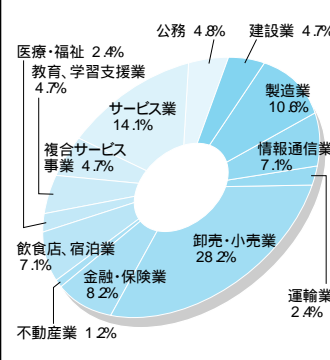


国際ビジネス学科

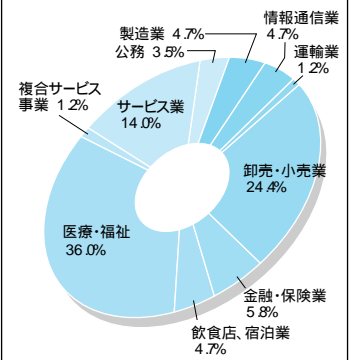


コミュニティ振興学部

コミュニティ文化学科

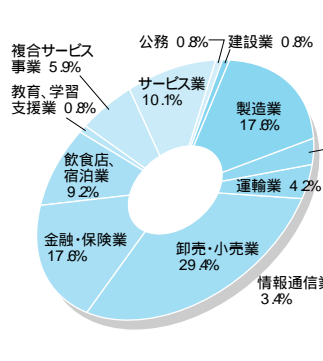


ヒューマンサービス学科

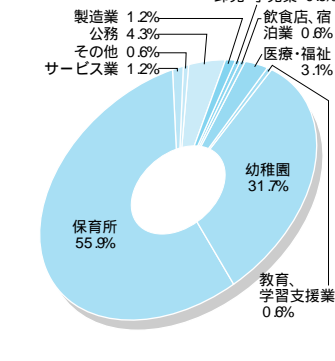


常磐短期大学

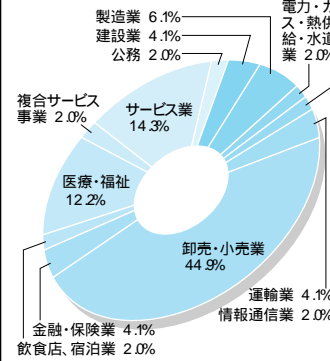
キャリア教養学科



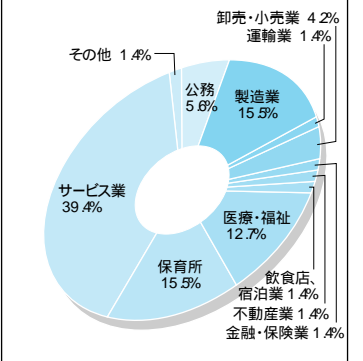
幼児教育保育学科



生活科学科・生活科学専攻



生活科学科・食物栄養専攻



2006年度事業報告

法人事業報告

教育・研究関連

1. コミュニティ振興学部地域政策学科設置
時期 2006年4月開設
定員 入学定員60名
2. 常磐短期大学「学業特待生(学費等減免)」制度施行
3. 高等学校交換留学制度施行
4. 京成百貨店内「常磐大学ナーサリー Popo (一時預かり施設)」開設・運営
情報機器関連
 1. 事務系電算機基幹システム再構築整備
 2. 教育用電算機教室機器整備
管理運営
1. 2009年開学100周年記念事業
 - 1) 2009年度国際被害者学シンポジウム開催準備事業
 - 2) 諸澤みよ記念館整備および関連事業
 - 3) 学校法人常磐大学ユニバーシティアイデンティティの再開発
 - 4) 寄付受け入れ事業
2. 2006年短期大学40周年記念事業
 - 1) 常磐短期大学創立40周年記念式典挙行〔2006年10月4日(水)〕
 - 2) ホームカミングデー開催
短期大学創立40周年記念幼児教育保育学科ホームカミングデー〔2006年8月26日(土)〕
短期大学創立40周年記念ホームカミングデー〔2006年11月25日(土)〕
3. 中等教育学校設置準備
2008年4月開設予定
男女共学中高一貫6年制
4. 卒業生情報管理事業
5. 2008年度大学・短期大学の学部学科改編準備
6. 教学事務機構改編に係わる業務分析
7. 管理運営機構の変更
8. 理事・常任理事の定数並びに選任手続の適正化
施設・設備整備
1. 校地購入
 - 1) 見和地区の用地取得
Q棟増築用地(459.50㎡)
茜梅寮(学生寮)敷地(593.40㎡)
 - 2) 新荘地区の用地取得(432.29㎡)
2. 諸澤みよ記念館竣工
3. 校舎改修(L・K・E棟ほか)等
 - 1) L棟改修工事: コンビニエンスストア誘致
 - 2) E棟改修工事: 実習室拡充
 - 3) K棟改修工事: 普通教室拡充
 - 4) アドミッションセンター新築
 - 5) 本部棟、学生ホール改修工事およびF棟改修工事
4. 教育設備の充実: 遠隔授業(芝浦~見和)システム1室増設整備
5. 緑化等環境整備計画

卒業生センター

1. ホームカミングデー(以下HCD)活動
 - 1) 短大幼児教育保育学科新卒者対象HCD
2006年8月26日(土)
出席者53名(教員含む)
 - 2) 大学卒業後15年対象HCD
2006年9月30日(土)
出席者27名(教員含む)
 - 3) 短大創立40周年記念(全卒業生対象)HCD
2006年11月25日(土)

- 出席者22名(教員含む)
- 4) 高校卒業後4年対象HCD
2007年2月3日(土)
出席者53名(教員含む)
2. 卒業生サービスに関する活動
 - 1) 卒業生向けカードの発行
カードサービス内容の検討
情報メディアセンター打ち合わせ
 - 2) 卒業生センター登録
登録者 高校卒業生... 1,830名
短大卒業生... 558名
大学卒業生... 316名
3. 各同窓会との連携活動
 - 1) 幹事会・同窓会総会への参加
 - 2) 高等学校および大学院同窓会個人情報管理
4. 同窓会館運営活動
 - 1) 同窓会館利用規程の作成
 - 2) 同窓会館利用状況 46件
5. 諸澤みよ記念館運営活動
 - 1) 諸澤みよ記念館利用規程の作成
 - 2) 諸澤みよ記念館利用状況 118名
6. 広報活動
 - 1) ホームページ更新
 - 2) 同窓会館リーフレットの配布
 - 3) 各同窓会報への卒業生センター情報掲載
 - 4) 「Topos」への卒業生センター情報掲載
 - 5) 在学生向けチラシの作成、配布
 - 6) 卒業生向けチラシの作成、配布

情報メディアセンター

1. 開館日数 250日
(内、土曜開館25日、日曜開館6日)
 2. 開館時間 8:45~19:30
(11/27~1/27の平日 8:45~21:00)
(土曜日、学生休業中、11/27~1/27の日曜日 9:00~17:00)
 3. 入館者 312,293人(1日平均:1,249.2人)
 4. 貸出人数 7,729人
 - 1) 学生 6,818人
- | | |
|---------------|-------|
| 人間科学研究科 | 174 |
| 被害者学研究科 | 44 |
| コミュニティ振興学研究科 | 42 |
| 人間科学部 | 3,096 |
| 国際学部 | 1,082 |
| コミュニティ振興学部 | 1,456 |
| 短大 | 924 |
| 2) 教職員 | 910 |
| 3) その他(高校生など) | 1 |
5. 貸出冊数 13,779冊
 - 1) 学生 11,942冊
- | | |
|---------------|-------|
| 人間科学研究科 | 386 |
| 被害者学研究科 | 98 |
| コミュニティ振興学研究科 | 71 |
| 人間科学部 | 5,273 |
| 国際学部 | 1,934 |
| コミュニティ振興学部 | 2,540 |
| 短大 | 1,640 |
| 2) 教職員 | 1,836 |
| 3) その他(高校生など) | 1 |
6. AVギャラリー、センターホール利用状況
 - 1) メディアセンター利用点数: 8007点
 - 2) センターホール使用: 53回
 7. 図書館間相互協力
 - 1) 文献複写依頼 474件(昭和女子大学、文教大学、国会図書館他)
 - 2) 同受付 124件(信州大学、関西学院大学、東洋大学他)

- 3) 図書貸借依頼 84件(桜花学園大学、帝京大学、横浜市立大学他)
 - 4) 同受付 22件(お茶の水女子大学、南山大学他)
- | | |
|---------------|----|
| LLオンライン申込み参加者 | 3名 |
| (教職員のみ) | |
| 人間科学部 | 0名 |
| 国際学部 | 2名 |
| コミュニティ振興学部 | 0名 |
| 短期大学 | 1名 |
| その他 | 0名 |
8. 資料受入数

図書	9,700冊
視聴覚資料	578点
 9. 個人研究費購入図書受入(視聴覚資料を含む) 1,798冊
(内、科研費・課題研究 35冊)
 10. OPACアクセス
wwwOPAC 館内: 61,090回
館外: 115,256回
mobileOPAC 1,080回
 11. コピー使用(学生用) 79,290枚

国際交流語学学習センター

1. 国際理解活動
 - 1) TakTime(英語会話・中国語会話・韓国語会話・新規)の実施
 - 2) 国際交流語学学習センターニュースレターの発行(年4回)
 - 3) 2006年度大学案内英文パンフレットの作成
 - 4) 正規留学生チューター活動の実施
2. 教育交流活動
 - 1) 海外研修の実施
国際学部「海外研修I」
(アメリカ カリフォルニア大学アーバイン校)
国際学部「海外研修II」
(中国 北京第二外国语学院)
短期大学「国際文化研修」
(イギリス チェスターカレッジ)
 - 2) 常磐交換留学制度の実施
カリフォルニア州立大学提携校からの交換留学生受入れ
プログラム科目「日本語」「日本研究」「日本事情」の整備及び実施
常磐大学生による日本語チューター制度の実施
英語会話グループ活動(English Connections)の実施
国際交流会館ルームメイト(日本人学生)の募集
受入留学生による授業協力(TA)常磐大学生の派遣
留学生の次年度受入の募集及び審査
常磐大学生の次年度派遣の募集及び審査
 - 3) 常磐大学高等学校語学研修プログラム設立の支援
3. 国際交流語学学習センターの運営
 - 1) 国際交流エリアの充実及び語学学習エリアの有効活用
 - 2) 第1回高校生英語スピーチコンテストの実施
 - 3) 本学学生向けTOEFL-IT試験の実施
 - 4) EC活動参加者向け英語能力判定テストの実施
 - 5) 日本中国語検定協会との業務委託契約による検定試験の実施

4. 国際交流会館の運営

研究教育支援センター

1. 助成処理件数

- 1) 学内助成：個人研究費 3737件
共同研究費 238件
各個研究費 163件
備品助成 73件
- 2) 学外助成：科学研究費 256件
受託研究費 38件

2. 学内課題研究2007年度申請・内定件数

- 1) 共同研究：申請件数 8件、内定件数 7件
- 2) 各個研究：申請件数12件、内定件数12件

3. 学外助成関係

- 1) 科学研究費補助金関係
2006年度補助金交付件数：基盤研究 (C) 5件、萌芽研究 2件、若手研究 (B) 4件
2006年度新規交付決定者：
【基盤研究 (C)】
人間科学部 伊田 政司 教授
(社会的価値の測定に関する計量心理学的研究)
人間科学部 佐藤 環 助教授
(近世藩学における弓術教育の組織化と業績主義的運用の定着過程に関する研究)
人間科学部 宮本 聡介 助教授
(対人関係の親密化と崩壊の過程でのメタ認知の文化差 日米の比較)

【萌芽研究】

国際学部 松原 克志 助教授
(司法の科学観)

2007年度申請件数：基盤研究 (C) 6件、萌芽研究3件、若手研究 (B) 9件

2) 受託研究・共同研究等関係

- 受託研究
研究担当者：
国際学部 北根 精美 助教授
委託機関：
株式会社ひたちなかテクノセンター
研究テーマ：地場産業の技術を活用した新商品コンセプトの開発
研究期間：
2006年10月6日～2007年2月28日

共同研究

- 研究担当者：
人間科学部 伊東 昌子 助教授
協定機関：
NTT (日本電信電話株式会社)
研究テーマ：協働コミュニケーションの環境設計に関する基礎評価
研究期間：
2006年10月17日～2007年3月30日

寄付研究

- 研究担当者：コミュニティ振興学部
伊藤晋二助教授、水口進助教授
寄付者：中島潤子 茨城大学名誉教授・元常磐大学非常勤講師
研究テーマ：児童生徒を、親や教師はどこまで把握しているか
研究期間：
2004年10月1日～2008年3月31日
研究担当者：コミュニティ振興学部
秦 葭哉非常勤講師
寄付者：株式会社ヤクルト本社中央研究所
寄付講座

開講学部：人間科学部
寄付者：水戸信用金庫
寄付講座名：地域金融論および地域金融システム論
寄付期間：
2005年4月1日～2008年3月31日

4. 文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」(GP型支援)関係

- 1) 課程に応じた教育内容・方法の高度化・豊富化の充実
「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
平成18年度分申請：1件
(被害者学研究科の取組)
「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)
平成18年度分申請：1件
(短大キャリア教養学科の取組)
- 2) 現代的課題に対応できる人材養成と大学の多様な機能の展開
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)
平成18年度分申請：2件
(全学的取組/コミュニティ振興学部の取組)

5. 諸委員会運営

- 1) 研究予算委員会
上記学内課題研究の審査・採択、報告書受理等
- 2) 四大(全学)FD委員会
第一回常磐大学FDフォーラム開催等
- 3) 福原真知子学術振興助成金委員会
助成金交付審査・採択・交付手続き
第12回国際被害者学シンポジウムへの研究者派遣への助成
- 4) 常磐大学選書委員会
「常磐大学選書」刊行準備
- 5) 学会開催審査委員会
2006年度学内における学会大会開催支援教育実践学会第14回学会(学内使用責任者：人間科学部助教授 森山賢一)
開催日：2006年6月24日(土)
日本生涯教育学会第27回大会(学内使用責任者：コミュニティ振興学部教授 坂本登)
開催日：2006年10月7日(土) 8日(日)
国際経営文化学会2006年度年次大会(学内使用責任者：国際学部助教授 村山元理)
開催日：2006年11月25日(土)～26日(日)
2007年度学内における学会開催申請受理審査
日本教育情報学会2007年度年会(学内使用責任者：国際学部教授 堀口秀嗣)
開催予定日：2007年8月20日(月)～21日(火)
日本公益学会第8回大会(学内使用責任者：短期大学教授 安田尚道)
開催予定日：2007年9月22日(土)～23日(日)
英語評価研究会(日本語テスト学会・英語運用能力協会共催)
(学内使用責任者：国際学部助教授 中村洋一)
開始予定日：2007年12月1日(土)

6. その他

- 1) 研究教育支援センターHPリニューアル
- 2) 関係諸規程の改定または制定準備

エクステンションセンター

- 1. オープンカレッジ
公開講座の運営
運営体制の再構築(人員削減・配置の見直し、講師料削減、人材バンク構築、収支改善、他)
京成百貨店教室の設置
- 2. 水戸学講座
慶應MCC「夕学五十講」サテライト配信の運営
- 3. 科目等履修生
科目等履修生に関する総合窓口(学部・短大・大学院)
- 4. 入学前教育
2006年度における入学前教育の施策全般・コーディネート
- 5. 高大連携事業
1) 茨城県立高等学校生徒を対象とした大学の授業等公開に関わる協定による事業
プレカレッジ講座
高校生英語サマーセミナー
2) 常磐大学高等学校常磐大学コースへのアカデミックレクチャーの提供
- 6. 地域連携事業
1) 水戸市との包括協定による事業
まちづくりシンポジウム
水戸市立各学校(幼・小・中)への教育支援(学生派遣)
2) 茨城県教育委員会との連携事業
茨城ゆうゆうカレッジ
- 7. 学生支援事業
1) 資生堂サクセスフルエイジングセミナー
2) パソコン検定試験

心理臨床センター

- 1. 心理臨床活動
1) 相談担当 専任相談員：寺川亜弥子
兼任相談員：中里弘、濱崎武子、水口進、永野勇二、馬場久美子
非常勤相談員：大野征江、櫻井由美子
研修相談員：人間科学研究科第V領域大学院生
2) 相談日時 月～金(祝祭日は除く)
10時から19時まで
予約制・有料
3) 相談実施状況
電話受付回数：134回
新規相談申し込み件数：32件
面接件数：受理面接27件・継続面接34件(計延べ279回)
- 2. 研修相談員の教育・研修活動
1) 専任または兼任相談員による受理面接への陪席、ケース担当
2) 研修相談員のケース担当に伴う、個人スーパービジョンならびにグループスーパービジョンでの報告
3) ケースカンファレンスならびにインターカンファレンスでの報告
- 3. センター運営活動
センター運営委員会、センター会議、受理会議の開催
- 4. 社会活動
1) 県内関連機関との連携
2) 鹿行広域事務組合および行方市のメンタルヘルス業務
3) 研修会の開催
公開研究会「私流の来談者中心療法～言語をあたえることと感情の体験化につい

て～」の開催【2006年10月14日(土)】講師：桂有一氏

4) 専門講座の開催

公開講演会「子どもの世界」の開催【2007年3月7日(水)】講師：弘中正美教授

国際被害者学研究所

1. 研究活動

1) 被害者支援サービス

研究代表者：ドゥーシッチ所長、共同研究者：小林専任研究員

(2005年7月～2006年7月の1年間については、社会安全研究財団より助成)

前年度からの継続。被害者ニーズ、ならびに被害者支援サービスと支援者の訓練に関して郵送調査を実施。その分析結果を第12回国際被害者学シンポジウム(2006年8月、米・フロリダで開催)にて発表。さらに2006年度後半は、被害者、遺族に聴き取り調査を実施。被害者ニーズと実際に受けた支援に対して評価・分析を行い、論文を執筆。研究所紀要第3巻第2号(2007年7月に発刊)に掲載予定。

2) 隠された性的被害

研究代表者：キルヒホッフ教授、共同研究者：マンディー教授(人間科学部)、小林専任研究員

前年度からの継続。2006年度で完了。被害体験と被害者のリスク認知の視点から、心的外傷学の方法論を採用しデータを分析し、論文を執筆。研究所紀要第3巻第2号(2007年7月に発刊)に掲載予定。

3) 犯罪被害者の立直し要因比較研究

研究代表者：ドゥーシッチ所長、共同研究者：川口専任研究員

前年度からの継続。文献調査、ならびに被害者への聴き取り調査に基づき、被害回復の状態を測定する尺度を設定し調査票を作成。プリテストの結果を第12回国際被害者学シンポジウムにて発表。さらに、被害回復の状態と被害回復を促進する要因に関して、より精密な尺度を設定するため、被害者に関わりをもつ心理の専門家に回復の概念について調査を行った。

4) ホームレスの被害

研究代表者：キルヒホッフ教授、共同研究者：小林専任研究員

前年度からの継続。ホームレスに対する意識調査(郵送調査と電話調査)の分析結果を、メディアの報道のあり方と絡めて第12回国際被害者学シンポジウムにて発表。2007年度は、パート2として発展継続させ、ホームレスを対象として、被害の実態調査を実施する。

5) 被害者の脆弱性の認識と刑事司法制度における処遇

研究代表者：チョカリンガム教授、共同研究者：スリニバサン教授(インド・マドラス大学)

日本(常磐大学)並びにインド(マドラス大学)の大学生を対象として「犯罪被害者及び刑事司法制度に対する意識調査」を実施。インドにおける調査結果については、先に第12回国際被害者学シンポジウムにて発表した。日本・インドで収集された有効回答合計1400件について比較分析を行い、先行研究結果と併せ論文を

執筆。研究所紀要に投稿し、第3巻第1号(2007年3月発刊)に掲載となった。

2. 参加行事

第12回国際被害者学シンポジウム

会期：2006年8月21日～25日

場所：米・フロリダ州オーランド

参加者：諸澤教授、ドゥーシッチ所長、富田次長、長井教授、キルヒホッフ教授、チョカリンガム教授、川口専任研究員、小林専任研究員
参加内容：パネル発表、ワークショップ参加、セッション議長、等

3. 出版物

2006年7月 研究所紀要(International Perspectives in Victimology) 第2巻第1号発刊

2007年3月 研究所紀要(International Perspectives in Victimology) 第3巻第1号発刊

4. その他

1) 国際協力機構(JICA)技術研修員受入事業「総合的被害者支援システムの開発」
2006年7月助成申請を行い、2007年2月採択通知受領。2007年3月募集要項作成し、2007年度実施に向けて研修員募集を開始した。

2) 文部科学省研究設備整備計画(米国学位論文コレクション・被害者学)
2006年5月調書を提出し、2007年3月採択通知受領。論文128点が納品となった。

3) 被害者学文献目録データベースの稼働

4) 2009国際被害者学シンポジウム準備に関して企画広報課に協力

理事会報告(議事内容)

[第1回理事会 2006年5月25日]

第1号 2005年度収支決算に関する件

第2号 常磐大学・常磐短期大学の学部学科改組に関する件

第3号 中等教育学校設置に関する件

第4号 第2号基本金組入れに関する件

第5号 2006年度事業計画の一部追加に関する件

第6号 2006年度収支補正予算に関する件

第7号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件

[第2回理事会 2006年6月21日]

第8号 常磐大学・常磐短期大学就業規則第54条の取扱いに関する件

[第3回理事会 2006年8月2日]

第9号 常磐大学・常磐短期大学就業規則第54条の取扱いに関する件

第10号 常磐大学国際学部長の解任に関する件

第11号 常磐大学国際学部長職務代行者の選任に関する件

[第4回理事会 2006年9月21日]

第12号 2006年度事業計画の一部追加に関する件

第13号 常磐大学給与規程の一部変更に関する件

第14号 国際学部学部長職務代行解任ならびに学部長選任に関する件

第15号 寄附行為第24条第1項第1号評議員の選任に関する件

[第5回理事会 2006年12月8日]

第16号 2008年度常磐大学・常磐短期大学改組に関する件

第17号 2006年度収支補正予算に関する件

第18号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変

更に関する件

第19号 学校法人常磐大学定年規程の一部変更ならびに学校法人常磐大学再雇用規程の制定に関する件

第20号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件

第21号 常磐大学学則の一部変更に関する件

第22号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件

第23号 学校法人常磐大学寄附行為第5条第3項に規定する常任理事選任に関する件

[第6回理事会 2007年2月1日]

第24号 役職者人事に関する件

第25号 寄附行為第6条第1項第4号に規定する常任理事任期延長に関する件

第26号 寄附行為第25条第1項第1号に規定する評議員選任に関する件

第27号 寄附行為第25条第1項第2号および第3号に規定する評議員任期延長に関する件

第28号 学校法人常磐大学役員等の任期に関する規程および学校法人常磐大学役員等の選任手続きに関する規程の一部変更に関する件

[第7回理事会 2007年3月23日]

第29号 役職者人事に関する件

第30号 寄附行為に規定する理事・常任理事・評議員選任に関する件

第31号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件

第32号 常磐大学学則の一部変更に関する件

第33号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件

第34号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件

第35号 常磐大学・常磐短期大学就業規則の一部変更に関する件

第36号 給与改定および給与規程の一部変更に関する件

第37号 中等教育学校設置(建築計画)に関する件

第38号 2007年度事業計画に関する件

第39号 2007年度収支予算に関する件

2007年度 入試結果

(単位:人)

学校名	課程・学部・学科名等	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数
常磐大学大学院	人間科学研究科博士課程(後期)	6	0	0	0
	人間科学研究科修士課程	10	8	8	6
	被害者学研究科修士課程	20	5	5	3
	コミュニティ振興学研究科修士課程	20	5	5	3
	大学院計	56	18	18	12
常磐大学	人間科学部 心理教育学科	120	261	258	177
	現代社会学科	100	197	196	137
	コミュニケーション学科	80	155	154	119
	国際学部 国際関係学科	140	153	152	133
	英米語学科	60	95	94	87
	コミュニティ振興学部 コミュニティ文化学科	60	76	76	66
	地域政策学科	60	80	80	65
	ヒューマンサービス学科	80	108	107	88
	大学計	700	1125	1117	872
常磐短期大学	キャリア教養学科	130	138	138	136
	幼児教育保育学科	140	153	153	147
	生活科学科	130	167	167	138
	短期大学計	400	458	458	421
常磐大学高等学校	全日制普通科	600	2049	2016	1879
常磐大学幼稚園	3年保育	55	65	63	62
	2年保育	若干名	9	9	9
	1年保育		1	1	1

秋 semester 入学は2007年7月12日実施のため未集計。

2007年度 法人役員一覧

【理事長】 諸澤 英道 元常磐大学長、同大学大学院教授	【評議員】 学識経験者 大谷 啓治 元上智大学長、同大学名誉教授
【顧問】 阿部 充夫 (財)放送大学教育振興会会長、元文部事務次官 西原 春夫 元早稲田大学総長、同大学名誉教授、元全私学連合会長 G.L.Curtis コロンビア大学教授 高橋潤二郎 アカデミーヒルズ顧問、慶應義塾大学名誉教授 黒木剛司郎 元茨城大学長、同大学名誉教授 中西 元男 (株)PAOS代表取締役社長	宮田 武雄 茨城県立産業技術短期大学校長、元茨城大学長、同大学名誉教授 佐久間正祥 水戸赤十字病院院長 神林 章夫 元(株)カスミ名誉会長 立原 久 元(株)常陽銀行常務取締役 諸澤 篤子 元上智大学講師 村田 幸子 元NHK解説委員 川勝 平太 静岡文化芸術大学長、国際日本文化研究センター客員教授 石渡千恵子 石渡産婦人科病院副院長、茨城県教育委員会委員 竹内 順一 茨城交通(株)取締役社長 澁谷 勲 (株)常陽銀行取締役会長
【理事】 関 正夫 関彰商事(株)代表取締役会長 大谷 啓治 元上智大学長、同大学名誉教授 宮田 武雄 茨城県立産業技術短期大学校長、元茨城大学長、同大学名誉教授 渥美 東洋 元学校法人中央大学理事、同大学名誉教授 佐久間正祥 水戸赤十字病院院長 諸澤 英道 元常磐大学長、同大学大学院教授 高木 勇夫 常磐大学長、常磐短期大学長	教職員 唐木 囿和 常磐大学国際学部教授 竹中 治利 常磐短期大学教授 浅岡 廣一 常磐大学高等学校長 山田 隆士 常磐大学高等学校副校長、中等教育学校開設準備室長 榎本 正明 常磐大学幼稚園長 齊藤 久展 学校法人常磐大学理事長室長
【常任理事】 糸賀 茂男 常磐大学人間科学部教授 鈴木 暎一 常磐大学コミュニティ振興学部教授 小櫃 重秀 学校法人常磐大学事務職員 宮田 雅史 学校法人常磐大学事務職員	卒業生 池田 正則 常磐大学同窓会会長 中崎 啓子 常磐短期大学同窓会みわの会会長 住谷 里子 常磐大学高等学校常磐学園同窓会常任幹事
【監事】 荒川 誠司 弁護士、荒川法律事務所 若山 実 税理士、若山実税理士事務所	学生・生徒の保護者 郡司恵一郎 常磐大学後援会会長 廣木 正則 常磐短期大学父母の会会長 中橋登志峰 常磐大学高等学校PTA会長
	【参与】 藤村 和男 (財)教科書研究センター常務理事

寄付金募集のご案内

学校法人常磐大学は、2009(平成21)年に開学100周年を迎えます。

企業や個人の皆様からご支援をいただく寄付金は、本学における教育及び学術研究の充実、発展を目的としたものです。園児、生徒、学生の教育や教員の研究活動へ有効に利用させて戴いた成果を通して、本学は広く社会に貢献いたします。個人(卒業生、在学生の保護者、教職員、一般有志)・法人・団体の皆様の格別なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄付金で行う事業

教育研究の奨励

園児・生徒・学生に対する教育支援

地域社会との連携事業に対する支援

園児・生徒・学生・教職員等が行う国際交流、文化、体育活動等への支援

その他学校法人常磐大学の発展のため必要と認められる事業等の支援

寄付金の種類・申込み

寄付資産運用課へご連絡ください。(下記参照)寄付申込書等の関係書類をお届けします。

個人の場合

所定の寄付申込書に必要事項をご記入の上、お申込みください。

所得税法の規定に基づき、特定公益増進法人に対する寄付として控除が受けられます。

(但し、一部の例外があります。)

法人の場合

「特定寄付金」または「受配者指定寄付金」を選択できます。

特定寄付金：一般の損金算入限度額と同額の損金算入額が別枠で認められます。

寄付申込書(特定公益増進法人への寄付)にご記入の上、お申込みください。

受配者指定寄付金：寄付金の全額を決算時に損金算入することができます。

日本私立学校振興・共済事業団(以下「私学事業団」と表示)宛の申込手続きが必要となりますので、学校法人常磐大学および私学事業団の寄付申込書にご記入の上、お申込みください。

*受配者指定寄付金制度の概要 http://www.shigaku.go.jp/s_khu_p.pdf

寄付講座・寄付研究、現物寄付(不動産、有価証券等) 遺贈等による寄付

上記の受入れについても、対応いたします。

寄付金の申込みは任意ではございますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

税制上の優遇措置

学校法人常磐大学は、寄付金募集について、文部科学省から特定公益増進法人の証明書交付を受けております。ご寄付を戴きました金額は、個人または法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます。

*参照：国税庁ホームページ <http://www.taxanswer.nta.go.jp/index2.htm>

寄付者の顕彰

ご寄付を賜りました方の芳名を、ご了承を戴いた場合には感謝の意をこめて常磐大学学報に掲載させていただきます。

申込み及び問い合わせ先

学校法人常磐大学 寄付資産運用課

〒310-8585 水戸市見和1-430-1 TEL 029-232-2759 FAX 029-232-2746

E-mail:kifu@tokiwa.ac.jp <http://www.tokiwa.ac.jp/kifu/index.html>

常磐大学・常磐大学大学院・常磐短期大学卒業生の方には、卒業生センターでも寄付を受け付けております。

寄付者芳名 ご協力に感謝いたします。

寄付者	金額	内容、指定用途等
大津 雪子 様	50,000円	常磐大学高等学校に対する教育支援
常磐大学2006年度卒業生(643名)一同様	500,000円	卒業記念品代
常磐短期大学2006年度卒業生(430名)一同様	400,000円	卒業記念品代

卒業生センター便り

●ホームカミングデー情報

卒業生センターでは、今年度もホームカミングデーを実施いたします。次の卒業生を対象に実施を予定しています。

高等学校卒業4年経過の卒業生

短期大学新卒者

大学卒業15年経過の卒業生

対象の方々には個別に案内を送付いたします。楽しいひとときをお過ごし下さい。

同窓会館利用案内

同窓会館は、卒業生をはじめ、在学生や一般の方々にも広くご利用いただけます。年末年始、8月中旬を除き、原則土・日曜日でも利用可能です。事前申請の上、ご利用下さい。詳細につきましては、卒業生センターまでお問い合わせ下さい。

諸澤みよ記念館見学案内

諸澤みよ記念館は、どなたでも見学が可能です。年末年始、8月中旬を除き、土曜日でも開館しています。学校法人常磐大学の創立者諸澤みよ先生の生涯や法人の歴史を知ることが出来る施設です。是非、足を運んでみて下さい。詳細につきましては、卒業生センターまでお問い合わせ下さい。



卒業生センターへ、様々なご意見・ご提案をお寄せ下さい。「こうしたら、学校法人常磐大学がもっと発展するのでは?」とか、「こうしたら卒業してからも学校に行きやすいのに」などといったご意見をいただければと存じます。卒業生の方々と一緒に学校法人常磐大学を盛り上げていければと存じます。よろしく願いいたします。

問い合わせ先

〒310 0036 茨城県水戸市新荘1726

学校法人常磐大学 卒業生センター

TEL& FAX / 029 231 8162

事務取扱時間 / 平日9:00 ~ 17:00



同窓会活動報告①

●常磐大学高等学校同窓会(常磐学園同窓会)

去る2月27日、常磐学園同窓会では小林三千代会長、稲葉孝子副会長、後藤政子副会長など多数の幹事出席のもと、入会式が盛大に挙行され、新たに378名もの会員を迎えることができました。新入会員代表あいさつでは、青木章さんが高校3年間の思い出、特にサッカー部での活動を通して得られた仲間との絆や達成感、そしてこれからの大学生活への期待と不安を述べてくれました。それに対し、会員を代表して、常任幹事で、卒業生センターに勤務なさっている黒澤幸子さんが、同窓会や卒業生センターの活動の様子や、今後、積極的に卒業生センターを活用してほしい旨の挨拶をして下さいました。本年は総会開催の年にあたります。多数の方々には総会に出席していただきたいと考えています。

同窓会活動報告②

●常磐大学同窓会

2006年度学生支援事業として、体育館に緞帳を寄贈(購入資金の一部援助)しました。その他、学園祭(ときわ祭)にも資金援助をしています。



常磐大学同窓会は2007年に設立20周年を迎えました。これを記念して20周年記念講演会及び総会・懇談会を、6月16日に水戸京成ホテルで開催しました。講演者には様々なジャンルでご活躍をされているエッセイストの安藤和津(あんどわかづ)さんをお迎えして「明日を素敵に生きるには」というテーマでお話をいただきました。懇談会では、なつかしい仲間との久しぶりの再会に喜び、お互いの近況報告や学生時代の思い出話に花が咲き、楽しい時間を過ごすことができました。詳しくは次号の学報で報告します。

編集後記

夏は草木が力強く生長する季節。梅雨の雨をしっかり吸い込み暑い陽射しに照らされて、大きく枝葉を広げていきます。そして、学校法人常磐大学もいままさに成長のとき。大学・短大の学科改編、智学館中等教育学校*の開校など、地域に根ざした取り組みを始めています。2009年の開学100周年に向けて、さらに発展する学校法人常磐大学にご期待ください。